

## 昭和の南海地震体験談

氏 名:新谷 竜一(しんたに りゅういち)  
生年月日:(91 歳)  
地震を体験した場所:すさみ町  
当時の家族状況:父、母、妻、息子、妹二人



### 1) 地震発生時の状況

当時 29 歳。家族7人で寝ていた。家の前に湾がある。  
揺れると同時に、父が、家の玄関を開け、沖を見て、「津波来るぞ!」「逃げるぞ!」と早かったと思う。

私は、生後一週間の息子を抱き、妻は、産後一週間で、薄い布団を持ち、父は、布団を頭に被って、母も何か持っていただろうが、覚えていない。

### 2) 津波襲来時の状況

家の隣の川沿いに逃げた。途中で波に追いつかれた。

私は、昭和 19 年の東南海地震の時、満州に居たので知らなかったが、すさみに居た妹が、昼間、山で焚き木拾いをしていた時、地震があり、地震の後、山から海が見えて、見る見る浜の水が引くのを見て驚き、その話を夕食時に父が聞いて、妹に、「そら(それは)、津波やなあ」と言っていたらしいので、父は、<地震=津波連想>はあったと思う。

### 3) 家族の行動・被害

家族全員、水に脛まで浸かりながら津波に追いかけられるように、寺の前の親戚の家で夜が明けるまで避難していた。夜明けと共に家に帰った。

### 4) 集落・周囲の被害

家に戻ってみると、家の玄関の敷居が濡れていて、「ああ、ここまで水が来たんだなあ」と判ったそうだ。田畑は浸水、近所の低い家は皆、床下浸水。

### 5) 地震・津波後の生活

特に被害は無かったので普通に生活した。